つどい・つむぎ・つなげる・未来

「第２回つながろう CO・OP アクション交流会」開催

パネルディスカッションでは、さまざまな意見が出された。

３月 14 日、コラッセ福島（福島市）で「第２回つながろう CO・OP アクション交流会～つどい・つむぎ・つなげる・未来～」が開催され、全国 42 生協の役職員・組合員ら 155 人が参加しました。交流会では、東日本大震災発生から３年目を迎えた被災地の現状を学び、また、今後の継続した支援活動を続けるにあたって必要なことを考え合いました。

コープふくしま野中俊吉専務理事の「原発事故から生協組合員の暮らしをとりもどしたい」と題した講演から始まったこの交流会は、その後、岩手県、宮城県、福島県ごとの分科会に分かれ、最後に分科会を受けて全体でパネルディスカッションが行なわれました。

パネルディスカッションでは、地域の復興の遅れから格差が大きくなっていることや、先の見通せない不安の中でストレスが増している状況などが出され、被災者生活再建支援法の補強などの社会的支援、サロン活動への支援、被災地生協だけでなく支援生協からも発信を強化することなど、具体的な要望が出されました。また、地域社会での連携や役割発揮として、行政からの信頼が増したことや、地域社会の中に生協が位置付けられてきたこと、さまざまな団体と連携し町づくり審議会に参画できたことなどが確認されました。

分科会で、今後の支援のあり方について考え合う参加者。

「忘れない」という決意を胸に

コープこうべ第３地区「震災２周年のつどい」開催

14時46分には、全員で黙とうを行なった。

３月 11 日、コープこうべ第３地区（神戸市東灘区～須磨区）では、「震災２周年のつどい」を開催しました。支援活動を長く続けていこうと活動する第３地区「震災支援を考える会」と、自然災害の犠牲を語り継ぐ「平和企画委員会」の合同開催です。この日は 60 人の参加があり、座席が足りなくなるほどでした。

「つどい」は、第３地区組織統括の岩本衛さん司会で進行、地区理事の藤本正子さんのあいさつを皮切りに、コープ活動サポートセンター住吉チーフの林 律子さんによる支援活動報告、続いて防災対策として、組合員による簡単な防災ずきん作りの発表がありました。

そして、東日本大震災発災時刻の 14 時 46 分には参加者全員で黙とうを捧げました。

参加者の中には 1995 年の阪神・淡路大震災で被害に遭った方も多く、「東北は津波と東京電力福島第一原発事故の被害が甚大なのでとても心配」「自分の経験上、『頑張れ』とは言えない。でも、頑張ってほしい」などの声が聞かれました。

第３地区本部長の野間 誠さんは当日の日本経済新聞のコラムから、「人が一心に祈るとき、本当に必要なものは、わずかな場所と時間だけらしい。祈りの先には必ず相手がいる」と読み上げて、参加者の共感を呼んでいました。

これまでの支援活動の振り返りも行なわれた。

ご案内：バックナンバーは、こちらをクリック！
URL：http://shinsai.jccu.coop/coopaction.html